

(1) 概 況

平成19年の大分県鉱工業生産指数（平成17年＝100）は、図1で見られるように112.1で前年比4.8%と4年連続の上昇となった。

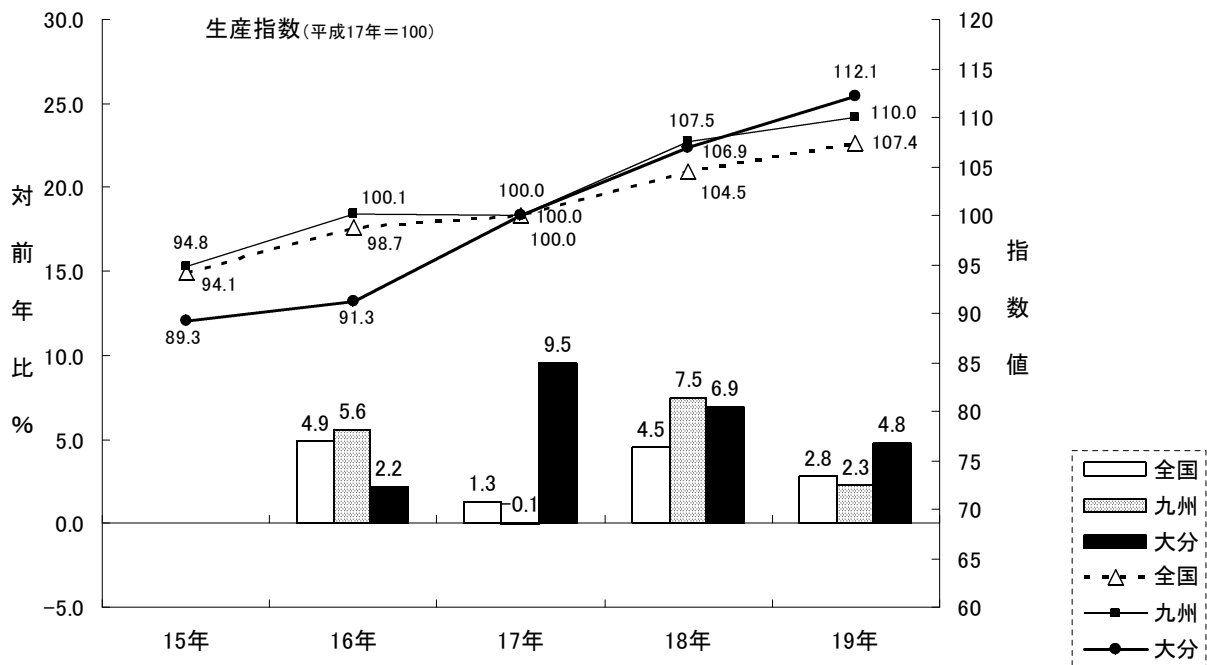
全国生産指数は107.4で前年比2.3%と4年連続の上昇となった。九州は110.0で前年比2.3%と2年連続の上昇となった。

生産指数（大分県）を業種別にみると、前年に比べ、輸送機械工業、情報通信機械工業、一般機械工業等9業種が上昇し、繊維工業、電気機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業等11業種が低下した。財別では最終需要財が4年連続の上昇、生産財は3年連続の上昇となった。

出荷指数（大分県）は、112.2で前年比5.1%となり、4年連続の上昇となった。業種別にみると、前年に比べ、情報通信機械工業、輸送機械工業、化学工業等10業種が上昇し、電気機械工業、繊維工業、家具工業等10業種が低下した。

在庫指数（大分県）は、96.8で前年比▲6.5%となり、2年ぶりの低下となった。業種別にみると、前年に比べ、木材・木製品工業、電気機械工業、その他製品工業等7業種が上昇し、家具工業が横ばい、食料品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、電子部品・デバイス工業等10業種が低下した。

図1 生産指数及び対前年比の推移（統計表1）



(ア) 生産活動の特徴

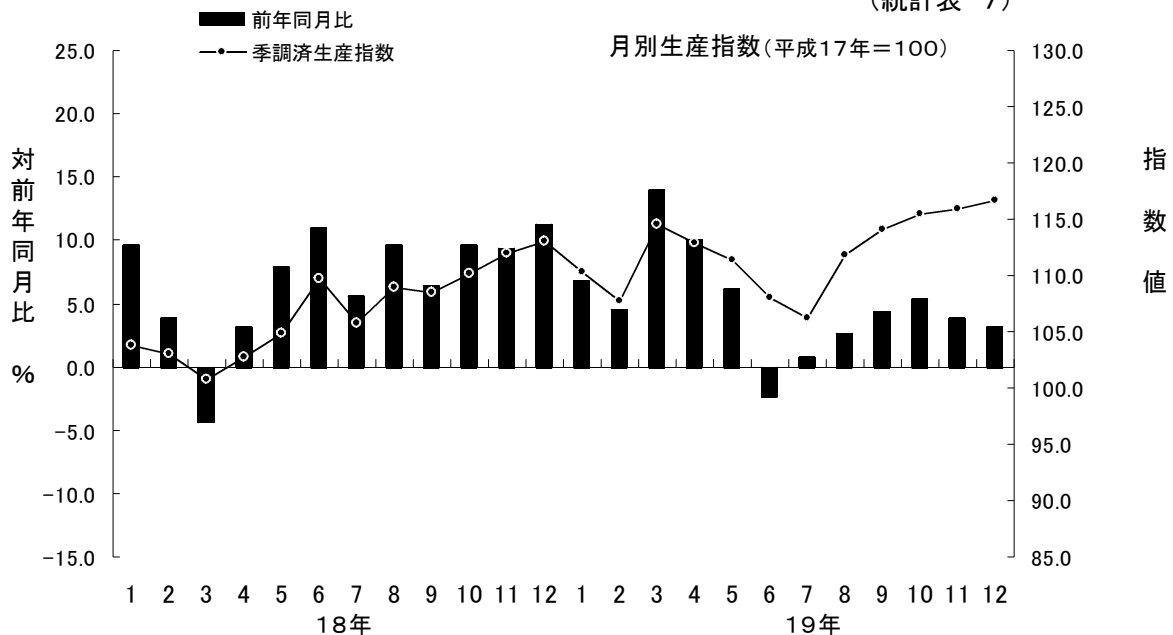
I 生産指数は好調に推移

図2は、月別の生産指数（季節調整済指数）と各月の前年同月比（原指数）の推移を示したものである。

平成19年は、6月を除く全ての月で対前年同月比が上昇するなど、生産指数は好調に推移した。

図2 月別生産指数(季節調整済指数)及び対前年同月比(原指数)の推移

(統計表 7)



II 年平均生産指数は4年連続で上昇

平成19年平均生産指数は112.1で、対前年比4.8%と4年連続の上昇となり、平成17年基準改定以後最高の指数となった。

III 9業種が上昇、11業種が低下

平成19年平均生産指数を業種別にみると、情報通信機械工業が4年連続、鉄鋼業、非鉄金属工業、輸送機械工業が3年連続上昇するなど、20業種中9業種が上昇した。一方、電気機械工業、繊維工業が4年連続、食料品工業が3年連続低下するなど、11業種が低下した。

上昇した9業種の主な業種は、輸送機械工業（対前年比18.2%）、情報通信機械工業（同18.0%）、一般機械工業（同9.8%）等であり、低下した11業種の主な業種は、繊維工業（同▲30.7%）、電気機械工業（同▲29.9%）、パルプ・紙・紙加工品工業（同▲6.5%）等である。

(イ) 四半期別の動向

表1は、平成19年の四半期別生産指数の推移を示したものである。
 本県においては、全期別において前期比で上昇し、好調に推移した。
 業種別四半期の動向は、表2のとおりである。

表1 四半期別生産指数（季節調整済）の推移（統計表10）

区 分	全 国		九 州		大 分 県		
	指 数	前期比	指 数	前期比	指 数	前期比	前年同期比
19年1～3月期	105.8	▲0.5%	109.2	▲1.0%	110.9	▲0.7%	8.2%
4～6月期	106.4	0.6	107.8	▲1.3	110.8	▲0.1	4.8
7～9月期	108.2	1.7	110.7	2.7	110.7	▲0.1	2.8
10～12月期	109.2	0.9	112.6	1.7	116.0	4.8	3.8

表2 業種別四半期別生産指数（季節調整済）の推移（統計表10）

業 種 別	生 産 指 数				前 期 比 (%)			
	19年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	19年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
鉱工業総合	110.9	110.8	110.7	116.0	▲0.7	▲0.1	▲0.1	4.8
製造工業	111.0	110.8	110.9	116.3	▲0.7	▲0.2	0.1	4.8
鉄鋼業	107.1	105.2	108.5	120.7	▲4.0	▲1.8	3.1	11.3
鉄金属工業	117.2	121.2	128.2	118.7	▲4.4	3.4	5.7	▲7.4
非金属工業	91.2	94.0	90.7	96.3	0.2	3.0	▲3.4	6.1
一般機械工業	107.8	108.5	107.7	101.6	3.9	0.7	▲0.8	▲5.6
電気機械工業	60.0	48.9	34.0	63.5	▲11.9	▲18.4	▲30.5	86.7
情報通信機械工業	129.5	134.4	157.7	158.3	▲4.9	3.8	17.3	0.4
電子部品・デバイス工業	116.1	106.1	102.5	103.6	1.2	▲8.6	▲3.4	1.1
輸送機械工業	134.5	127.1	136.3	158.2	5.9	▲5.5	7.2	16.0
精密機械工業	114.6	118.6	113.0	117.7	▲1.0	3.5	▲4.7	4.2
窯業・土石製品工業	99.6	95.9	94.3	93.2	▲1.8	▲3.7	▲1.6	▲1.2
化学工業	106.4	107.1	100.8	104.0	7.5	0.7	▲5.9	3.1
石油製品工業	91.5	105.0	97.7	94.6	▲2.0	14.7	▲6.9	▲3.1
繊維工業	65.0	54.7	49.9	52.9	▲8.8	▲15.9	▲8.8	6.0
木材・木製品工業	102.4	106.1	97.0	84.8	0.0	3.5	▲8.6	▲12.5
食料工業	93.3	95.5	94.6	101.9	▲4.0	2.4	▲0.9	7.6
その他工業	97.4	98.9	96.4	98.1	▲0.2	1.6	▲2.5	1.7
パルプ・紙・紙加工工業	97.6	98.8	90.6	96.9	▲4.4	1.2	▲8.2	6.9
家具工業	89.0	82.7	90.9	82.1	3.0	▲7.1	10.0	▲9.6
プラスチック製品工業	106.3	107.3	104.0	102.6	1.9	0.9	▲3.0	▲1.4
その他製品工業	83.8	83.2	94.0	98.1	▲0.2	▲0.7	13.0	4.4
鉱業	103.4	101.7	100.3	95.8	1.5	▲1.7	▲1.3	▲4.5

<四半期別動向の詳細>

I 1～3月期

生産指数は、110.9 で前期比▲ 0.7 %の低下となった。この期は、全20業種中9業種が上昇、11業種が低下となった。上昇した主な業種は、化学工業（前期比7.5%）、輸送機械工業（同5.9%）、一般機械工業（同3.9%）などである。

一方、低下した主な業種は、電気機械工業（前期比▲ 11.9%）、繊維工業（同▲ 8.8%）、情報通信機械工業（同▲ 4.9%）などである。

II 4～6月期

生産指数は、110.8 で前期比▲ 0.1 %の低下となった。この期は、全20業種中11業種が上昇、9業種が低下となった。上昇した主な業種は、石油製品工業（前期比14.7%）、情報通信機械工業（同3.8%）、精密機械工業（同3.5%）、木材・木製品工業（同3.5%）などである。

一方、低下した主な業種は、電気機械工業（前期比▲ 18.4%）、繊維工業（同▲ 15.9%）、電子部品・デバイス工業（同▲ 8.6%）などである。

III 7～9月期

生産指数は、110.7 で前期比▲ 0.1 %の低下となった。この期は、全20業種中6業種が上昇、14業種が低下となった。上昇した主な業種は、情報通信機械工業（前期比17.3%）、その他製品工業（同13.0%）、家具工業（同10.0%）などである。

一方、低下した主な業種は、電気機械工業（前期比▲ 30.5%）、繊維工業（同▲ 8.8%）、木材・木製品工業（同▲ 8.6%）などである。

IV 10～12月期

生産指数は、116.0 で前期比4.8%の上昇となった。この期は、全20業種中12業種が上昇、8業種が低下となった。上昇した主な業種は、電気機械工業（前期比86.7%）、輸送機械工業（同16.0%）、鉄鋼業（同11.3%）などである。

一方、低下した主な業種は、木材・木製品工業（前期比▲ 12.5%）、家具工業（同▲ 9.6%）、非鉄金属工業（同▲ 7.4%）などである。

(ウ) 業種別寄与率及び寄与度

総合の伸びに対して、その内訳である業種がどの程度影響を与えたかを構成比で示したものが寄与率であり、この寄与率を総合の上昇率に配分したものが寄与度である。

平成19年の生産指数は、前年比4.8%の上昇となっている。この伸び率に対して上昇に寄与したものが9業種、低下に寄与したものが11業種となっている。

上昇に寄与した主な業種は、情報通信機械工業（寄与率56.6%）、輸送機械工業（同17.0%）、化学工業（同13.9%）などである。なお、情報通信機械工業で上昇寄与全体の44.1%を占めている。

一方、低下に寄与した主な業種は、電子部品・デバイス工業（寄与率▲8.3%）、窯業・土石製品工業（同▲6.0%）、電気機械工業（同▲4.3%）などである。

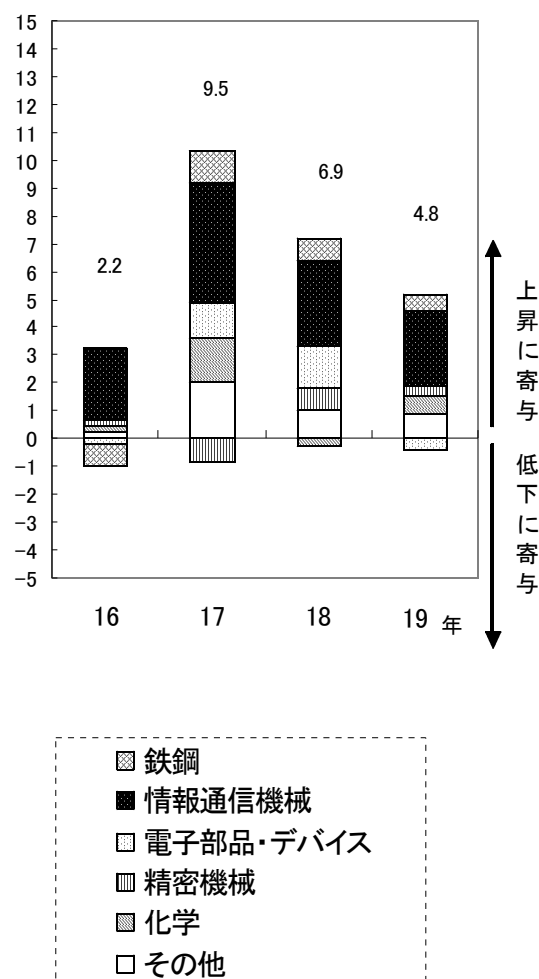
また、図3は、その年の生産総合指数の伸びに対する業種別の寄与度について、平成16年以降の推移を示したものである。全ての年次において情報通信機械工業が大きく寄与していることがわかる。

表3 業種別寄与率

業種別	寄与率(%)
鉱工業総合	100.0
製造業	100.3
鉄鋼	13.1
鉄	8.6
非鉄	▲1.2
金	11.5
製品	▲4.3
機械	56.6
電気	▲8.3
機械	17.0
通信	6.8
機械	▲6.0
電子部品・デバイス	13.9
工業	0.3
輸送	▲2.7
精密	▲0.0
機械	▲3.6
窯業・土石製品	▲1.2
化学	▲1.1
工業	▲0.3
石油製品	▲0.4
繊維	0.7
工業	▲2.7
木材・木製品	▲0.3
工業	▲3.6
食料	▲1.2
工業	▲1.1
その他	▲0.3
パルプ・紙・紙加工	▲0.4
工業	▲0.4
家具	0.7
工業	▲0.3
プラスチック製品	▲0.3
工業	0.7
その他製品	▲0.3
工業	▲0.3

注) 本表は各業種ごとに四捨五入しているため、内訳と合計が一致しないことがある。

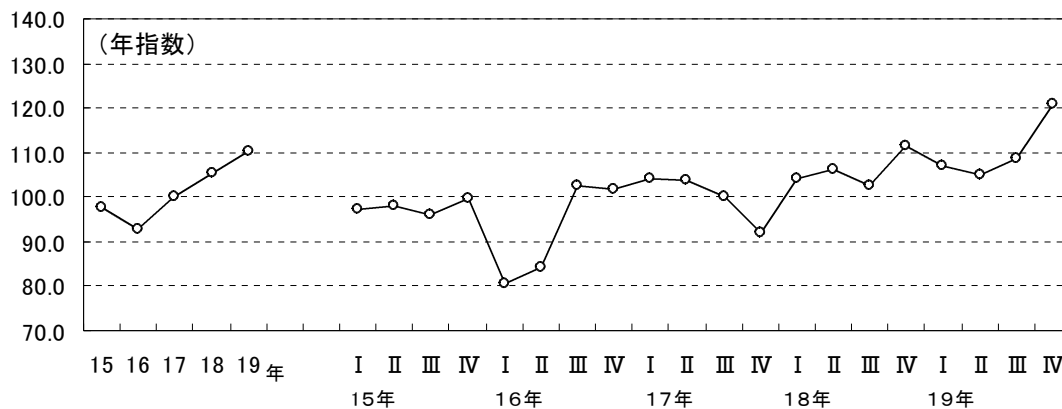
図3 鉱工業生産総合指数の伸びに対する業種別寄与度の推移



※ グラフ上の数値は総合指数の上昇率

(2) 業種別の生産動向 〔年指数は原指数、四半期別指数は季節調整済指数 平成17年=100〕

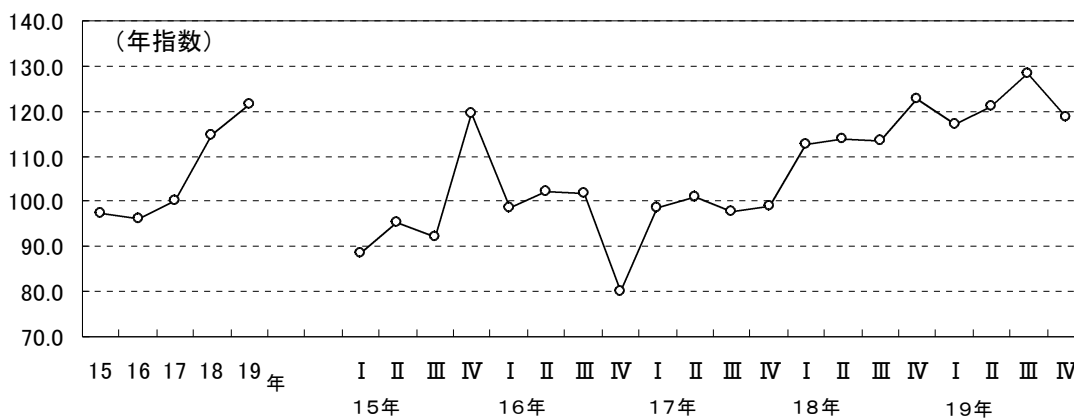
① 鉄鋼業



19年の鉄鋼業の生産指数は110.1で、前年比4.5%と3年連続の上昇となった。

[鉄鋼業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	110.1	—	4.5
Ⅰ期	107.1	▲ 4.0	2.8
Ⅱ期	105.2	▲ 1.8	▲ 0.8
Ⅲ期	108.5	3.1	5.8
Ⅳ期	120.7	11.3	8.2

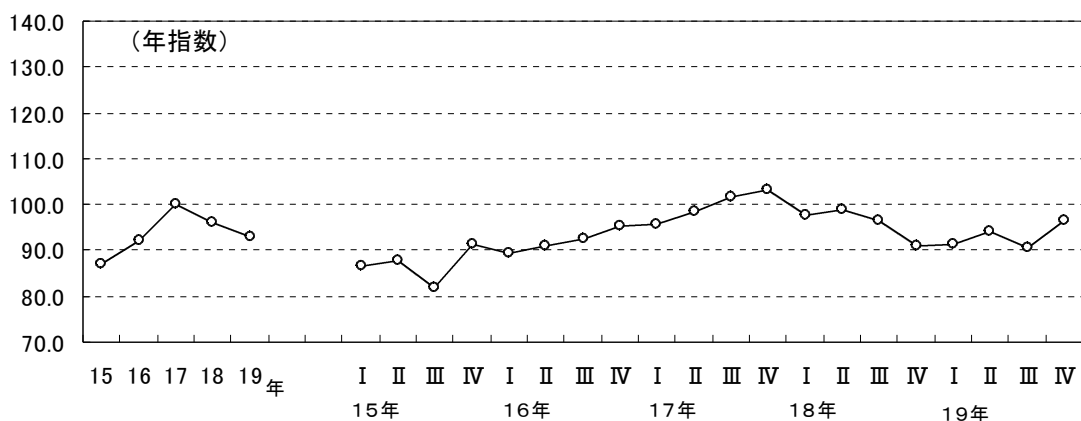
② 非鉄金属工業



19年の非鉄金属工業の生産指数は121.5で、前年比5.9%と3年連続の上昇となった。

[非鉄金属工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	121.5	—	5.9
Ⅰ期	117.2	▲ 4.4	4.0
Ⅱ期	121.2	3.4	6.6
Ⅲ期	128.2	5.7	12.8
Ⅳ期	118.7	▲ 7.4	▲ 3.2

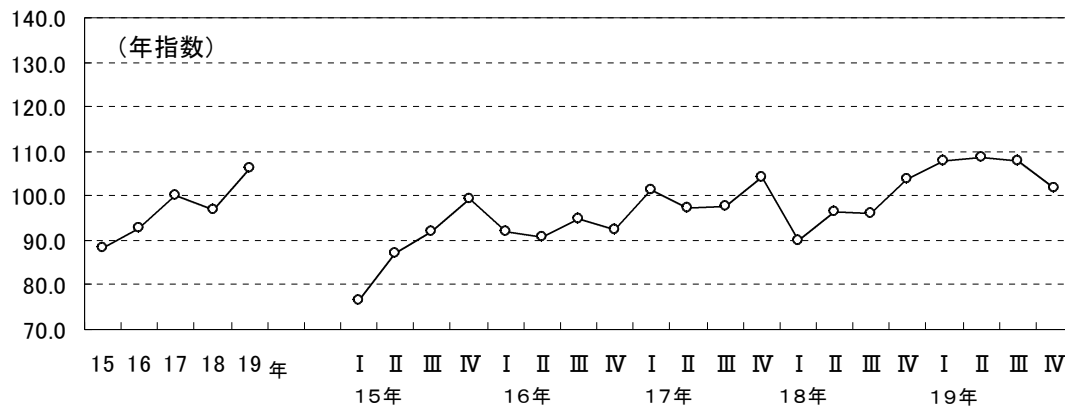
③ 金属製品工業



19年の金属製品工業の生産指数は93.0で、前年比▲3.1%と2年連続の低下となった。

[金属製品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	93.0	—	▲3.1
Ⅰ期	91.2	0.2	▲6.6
Ⅱ期	94.0	3.0	▲4.8
Ⅲ期	90.7	▲3.4	▲6.1
Ⅳ期	96.3	6.1	5.8

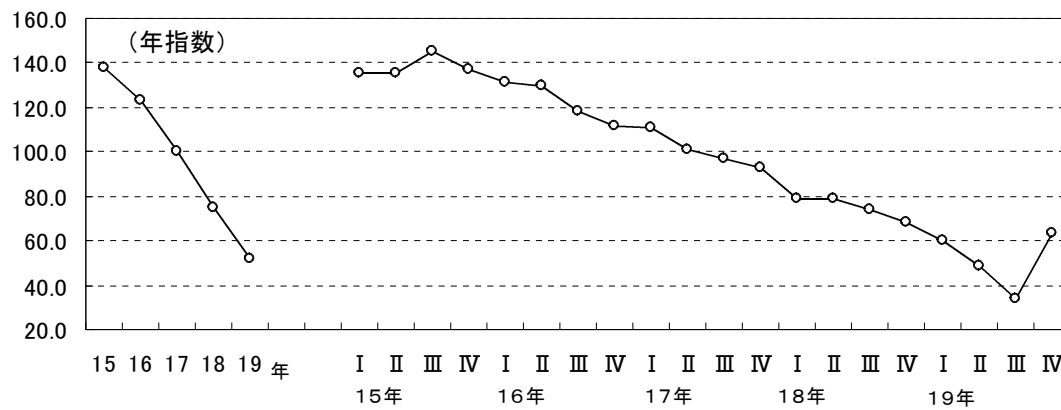
④ 一般機械工業



19年の一般機械工業の生産指数は106.2で、前年比9.8%と2年ぶりの上昇となった。

[一般機械工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	106.2	—	9.8
Ⅰ期	107.8	3.9	19.7
Ⅱ期	108.5	0.7	12.5
Ⅲ期	107.7	▲0.8	12.0
Ⅳ期	101.6	▲5.6	▲2.0

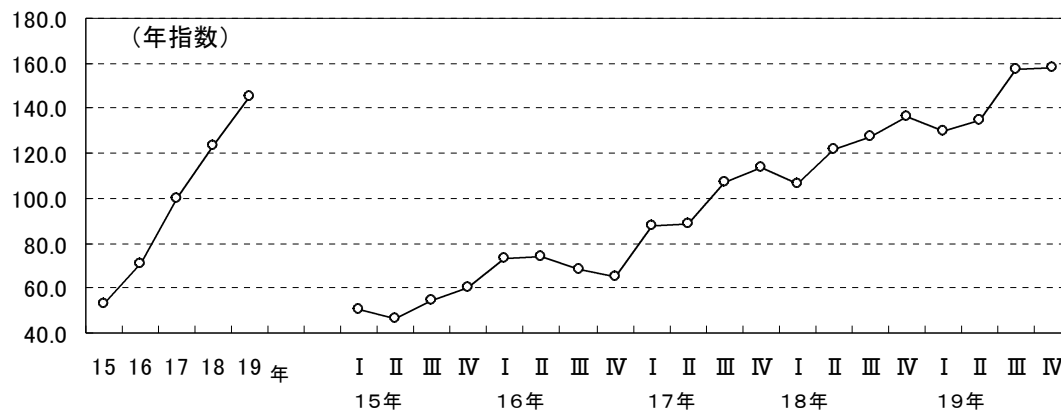
⑤ 電気機械工業



19年の電気機械工業の生産指数は52.3で、前年比▲29.9%と4年連続の低下となった。

[電気機械工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	52.3	—	▲29.9
I期	60.0	▲11.9	▲24.1
II期	48.9	▲18.4	▲37.7
III期	34.0	▲30.5	▲54.2
IV期	63.5	86.7	▲6.8

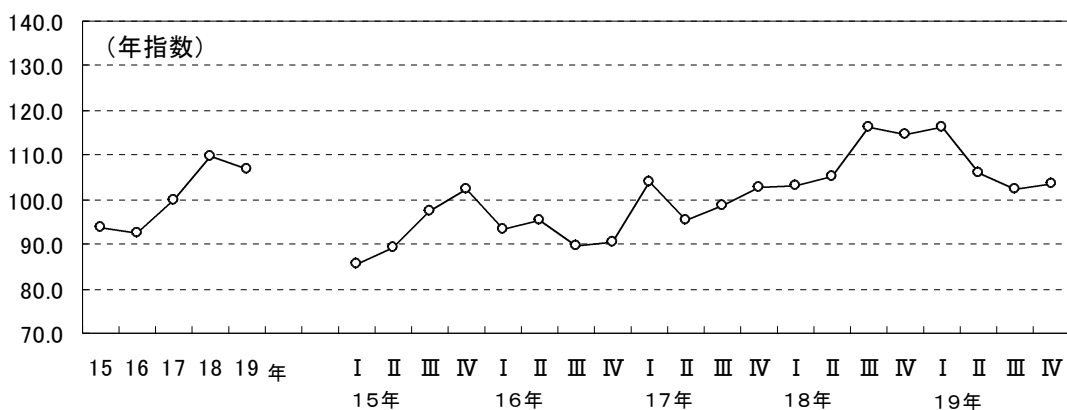
⑥ 情報通信機械工業



19年の情報通信機械工業の生産指数は145.4で、前年比18.0%と4年連続の上昇となった。

[情報通信機械工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	145.4	—	18.0
I期	129.5	▲4.9	22.0
II期	134.4	3.8	10.5
III期	157.7	17.3	24.0
IV期	158.3	0.4	16.4

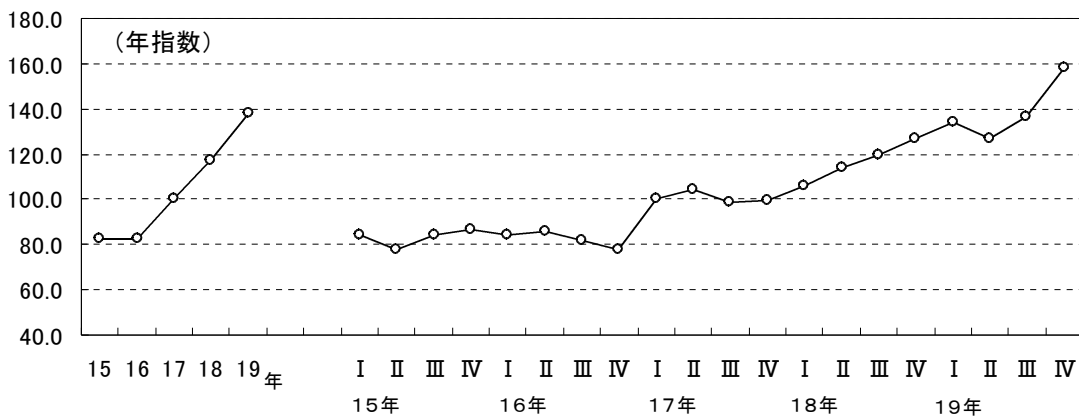
⑦ 電子部品・デバイス工業



19年の電子部品・デバイス工業の生産指数は106.9で、前年比▲2.4%と3年ぶりの低下となった。

[電子部品・デバイス工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	106.9	—	▲2.4
I期	116.1	1.2	12.8
II期	106.1	▲8.6	0.8
III期	102.5	▲3.4	▲11.8
IV期	103.6	1.1	▲9.6

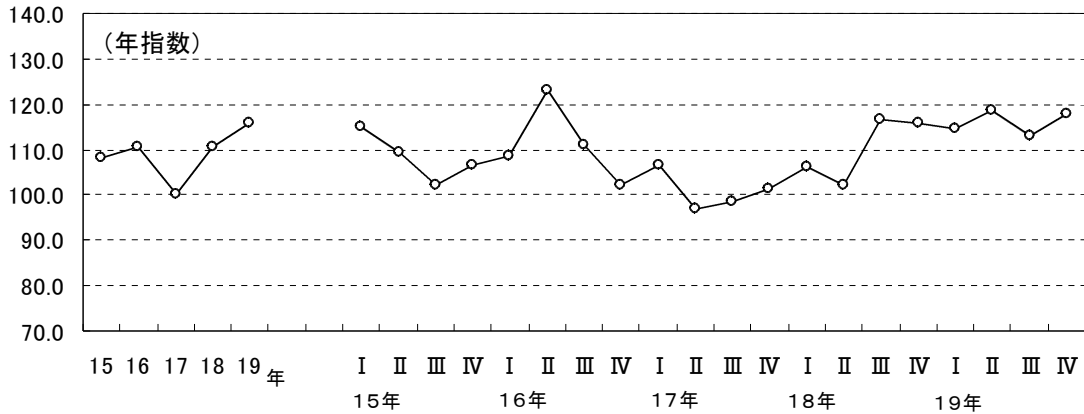
⑧ 輸送機械工業



19年の輸送機械工業の生産指数は138.2で、前年比18.2%と3年連続の上昇となった。

[輸送機械工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	138.2	—	18.2
I期	134.5	5.9	26.6
II期	127.1	▲5.5	11.6
III期	136.3	7.2	13.8
IV期	158.2	16.0	24.5

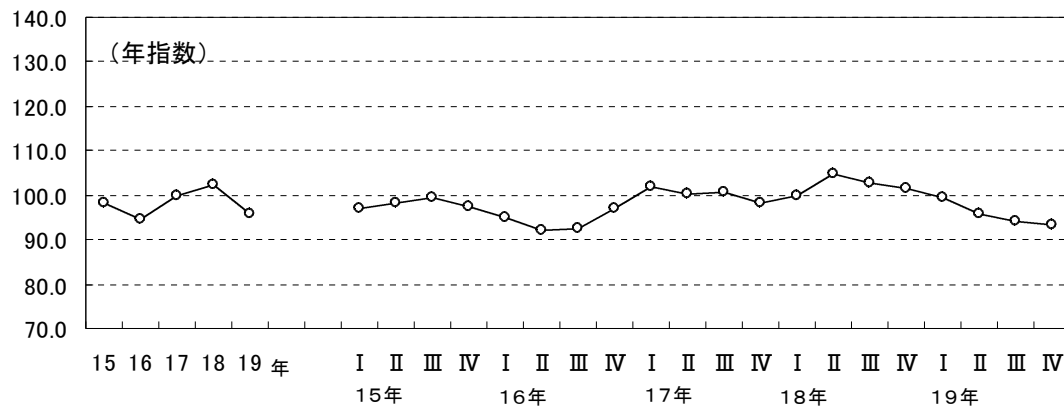
⑨ 精密機械工業



19年の精密機械工業の生産指数は115.8で、前年比4.5%と2年連続の上昇となった。

[精密機械工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	115.8	—	4.5
I期	114.6	▲ 1.0	7.7
II期	118.6	3.5	16.2
III期	113.0	▲ 4.7	▲ 3.3
IV期	117.7	4.2	1.8

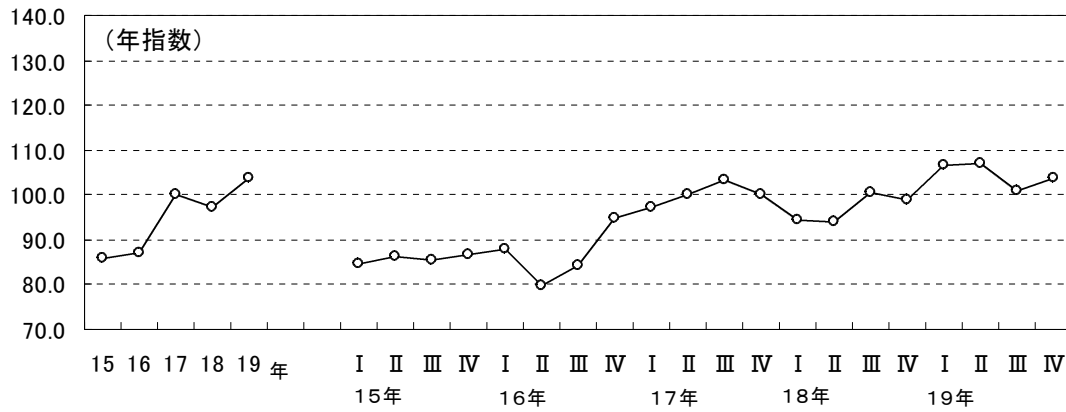
⑩ 窯業・土石製品工業



19年の窯業・土石製品工業の生産指数は95.7で、前年比▲6.3%と3年ぶりの低下となった。

[窯業・土石製品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	95.7	—	▲ 6.3
I期	99.6	▲ 1.8	▲ 0.5
II期	95.9	▲ 3.7	▲ 8.6
III期	94.3	▲ 1.6	▲ 8.2
IV期	93.2	▲ 1.2	▲ 8.1

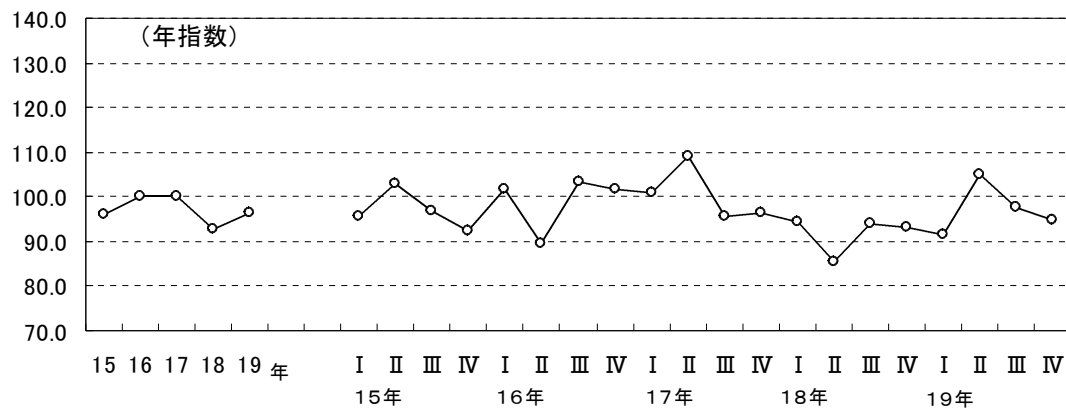
⑪ 化学工業



19年の化学工業の生産指数は103.9で、前年比6.7%と2年ぶりの上昇となった。

[化学工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	103.9	—	6.7
I期	106.4	7.5	12.7
II期	107.1	0.7	13.9
III期	100.8	▲ 5.9	0.4
IV期	104.0	3.1	5.1

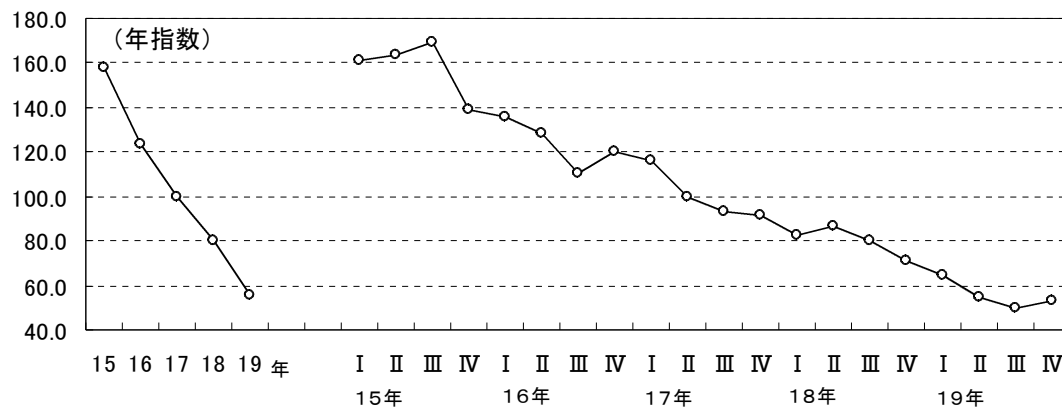
⑫ 石油製品工業



19年の石油製品工業の生産指数は96.3で、前年比3.6%と3年ぶりの上昇となった。

[石油製品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	96.3	—	3.6
I期	91.5	▲ 2.0	▲ 3.2
II期	105.0	14.7	23.0
III期	97.7	▲ 6.9	3.8
IV期	94.6	▲ 3.1	1.3

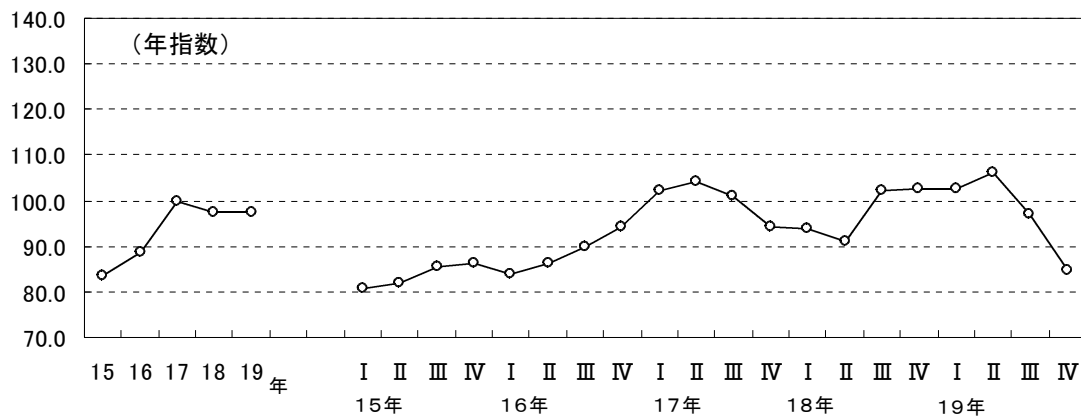
⑬ 繊維工業



19年の繊維工業の生産指数は55.5で、前年比▲30.7%と4年連続の低下となった。

[繊維工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	55.5	—	▲30.7
I期	65.0	▲8.8	▲21.2
II期	54.7	▲15.9	▲36.8
III期	49.9	▲8.8	▲38.0
IV期	52.9	▲6.0	▲25.8

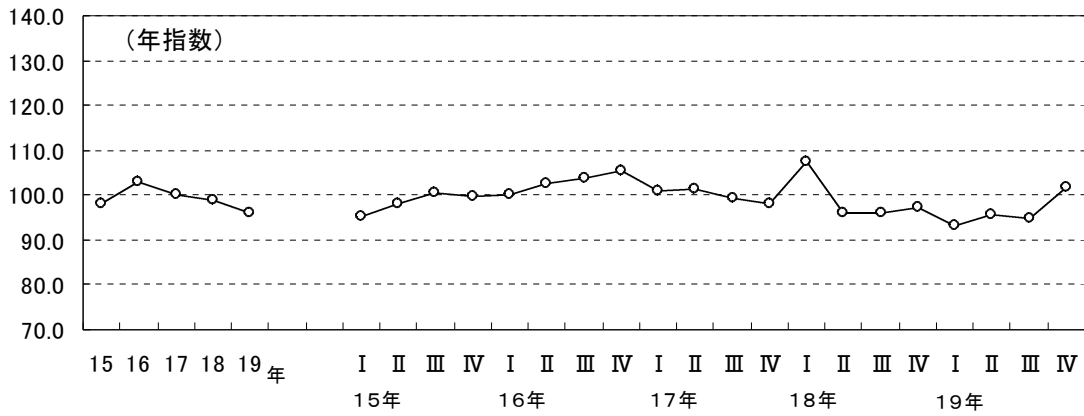
⑭ 木材・木製品工業



19年の木材・木製品工業の生産指数は97.3で、前年比▲0.2%と2年連続の低下となった。

[木材・木製品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	97.3	—	▲0.2
I期	102.4	0.0	9.2
II期	106.1	3.5	16.6
III期	97.0	▲8.6	▲5.0
IV期	84.8	▲12.5	▲17.2

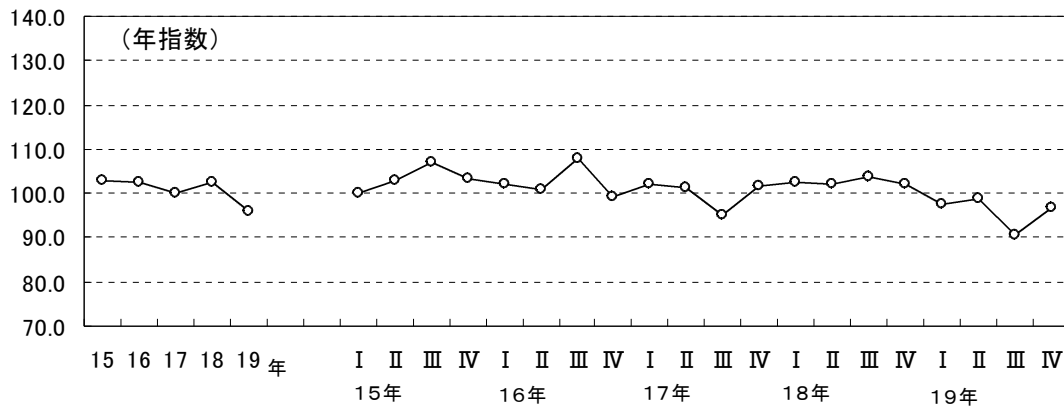
⑮ 食料品工業



19年の食料品工業の生産指数は96.2で、前年比▲2.8%と3年連続の低下となった。

[食料品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	96.2	—	▲2.8
Ⅰ期	93.3	▲4.0	▲13.3
Ⅱ期	95.5	2.4	▲0.5
Ⅲ期	94.6	▲0.9	▲1.6
Ⅳ期	101.9	7.6	4.9

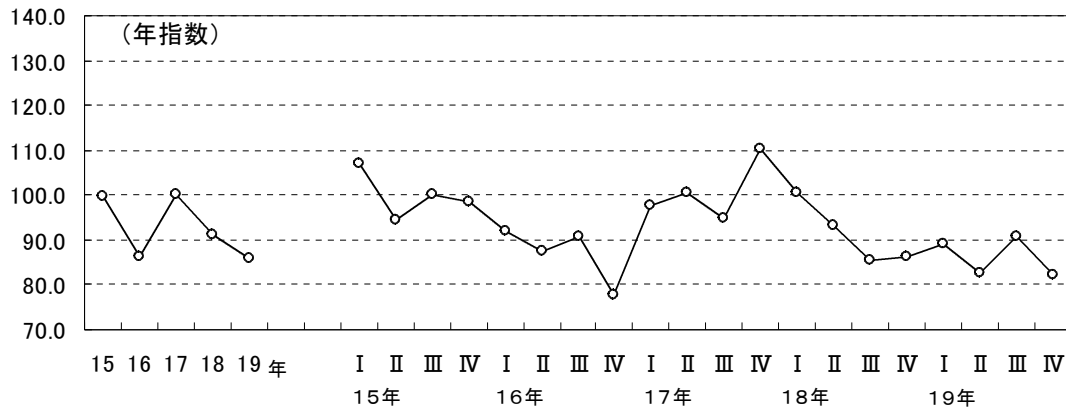
⑯ パルプ・紙・紙加工品工業



19年のパルプ・紙・紙加工品工業の生産指数は96.1で、前年比▲6.5%と2年ぶりの低下となった。

[パルプ・紙・紙加工品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	96.1	—	▲6.5
Ⅰ期	97.6	▲4.4	▲4.9
Ⅱ期	98.8	1.2	▲3.3
Ⅲ期	90.6	▲8.2	▲12.7
Ⅳ期	96.9	6.9	▲5.1

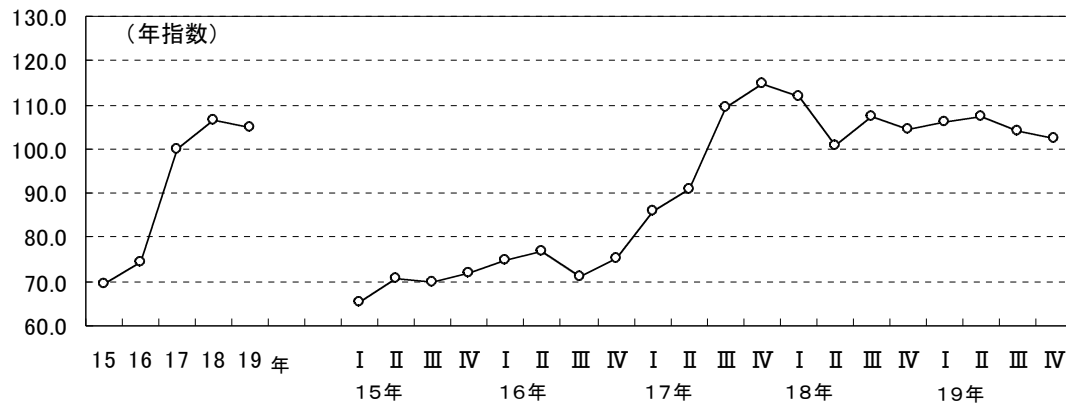
⑰ 家具工業



19年の家具工業の生産指数は85.9で、前年比▲6.0%と2年連続の低下となった。

[家具工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	85.9	—	▲6.0
I期	89.0	3.0	▲11.5
II期	82.7	▲7.1	▲11.4
III期	90.9	10.0	6.5
IV期	82.1	▲9.6	▲4.9

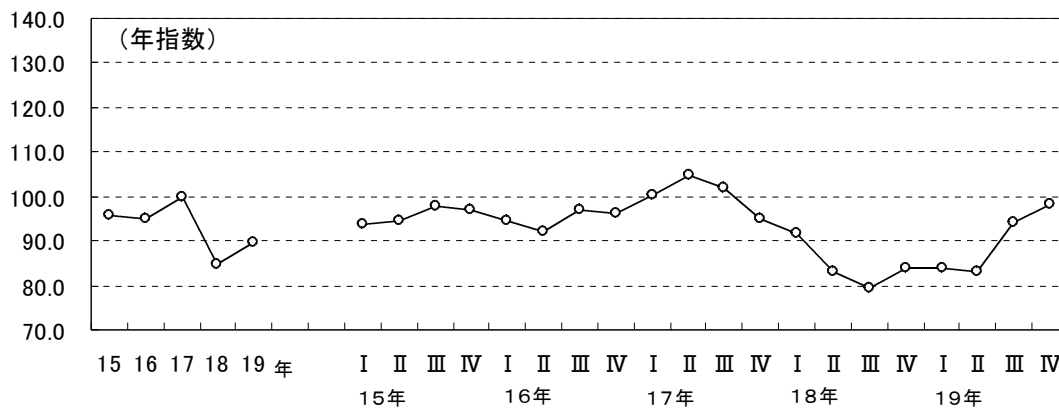
⑱ プラスチック製品工業



19年のプラスチック製品工業の生産指数は104.9で、前年比▲1.4%と4年ぶりの低下となった。

[プラスチック製品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	104.9	—	▲1.4
I期	106.3	1.9	▲5.1
II期	107.3	0.9	6.6
III期	104.0	▲3.0	▲3.0
IV期	102.6	▲1.4	▲1.6

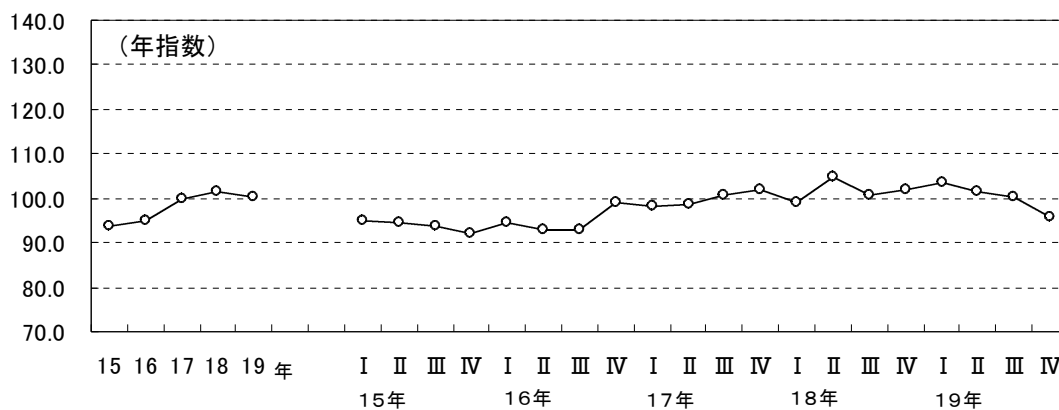
⑱ その他製品工業



19年のその他製品工業の生産指数は89.7で、前年比5.8%と2年ぶりの上昇となった。

[その他製品工業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	89.7	—	5.8
Ⅰ期	83.8	▲ 0.2	▲ 8.6
Ⅱ期	83.2	▲ 0.7	0.1
Ⅲ期	94.0	13.0	18.1
Ⅳ期	98.1	4.4	16.9

⑳ 鋳業



19年の鋳業の生産指数は100.2で、前年比▲1.2%と4年ぶりの低下となった。

[鋳業]	生産指数	前期比 (%)	前年(同期)比 (%)
19年	100.2	—	▲ 1.2
Ⅰ期	103.4	1.5	4.3
Ⅱ期	101.7	▲ 1.7	▲ 2.9
Ⅲ期	100.3	▲ 1.3	▲ 0.4
Ⅳ期	95.8	▲ 4.5	▲ 6.0

(3) 特殊分類（財別）の生産動向

特殊分類とは、それぞれの品目を経済的用途によって分類したものであり、その内容は表4のとおりである。

表4 特殊分類（財別）の分類定義

分類	定義
最終需要財	鉱工業又は他の産業に原材料として投入されない最終製品。ただし、建設財を含み、企業消費財を除く。
投資財	資本財と建設財の合計
資本財	主として家計以外で購入される財で耐用年数1年以上の財
建設財	建築用と土木用の合計
消費財	主として家計で購入される財
耐久消費財	耐用年数が1年以上で比較的購入単価が高い製品
非耐久消費財	耐用年数が1年未満、又は比較的購入単価が安い製品
生産財	鉱工業及び他の産業に原材料として投入される製品。ただし、輸出用の中間生産物、企業消費財を含み、建設財を除く。

図4は、平成15年以降の特殊分類（財別）生産指数の推移を表したものである。

平成19年は、最終需要財は4年連続で上昇し、生産財は3年連続で上昇した。

図4 特殊分類（財別）生産指数の推移

(統計表11)

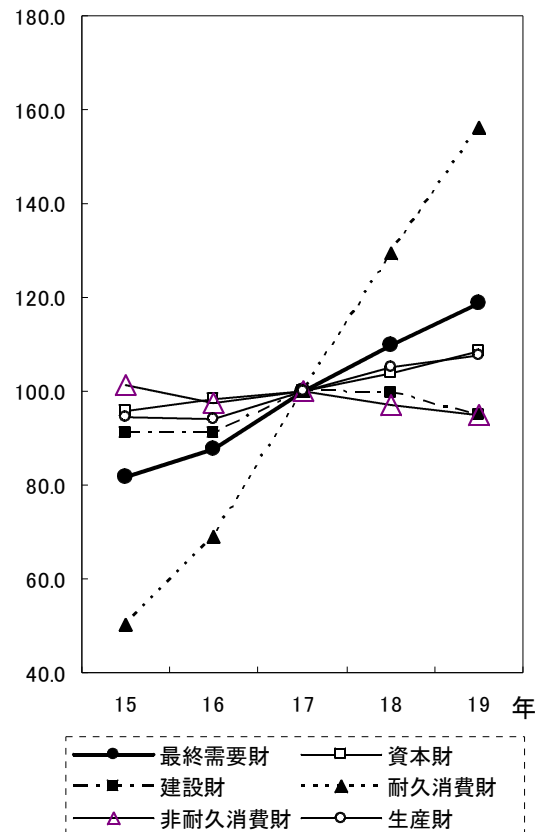


表5 特殊分類（財別）生産指数（統計表11）

	平成19年生産指数	前年比 (%)
鉱工業総合	112.1	4.8
最終需要財	118.6	8.1
投資財	103.9	1.5
資本財	108.6	4.5
建設財	94.9	▲ 4.7
消費財	130.3	12.8
耐久消費財	156.3	21.0
非耐久消費	94.9	▲ 2.0
生産財	107.6	2.5

(ア) 最終需要財

I 投資財

投資財の生産指数は、103.9で前年比1.5%と4年連続の上昇となった。内訳をみると、資本財の生産指数は、108.6で前年比4.5%と4年連続の上昇となり、建設財の生産指数は、94.9で前年比▲4.7%と2年連続の低下となった。

II 消費財

消費財の生産指数は、130.3で前年比12.8%と4年連続の上昇となった。内訳をみると、耐久消費財の生産指数は、156.3で前年比21.0%と4年連続の上昇となり、非耐久消費財の生産指数は、94.9で前年比▲2.0%と2年連続の低下となった。

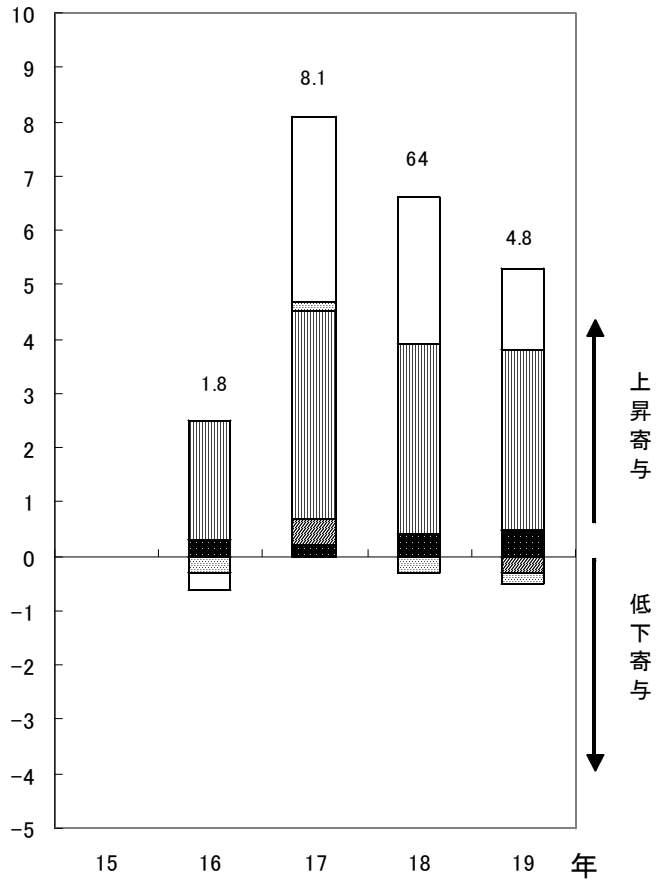
(イ) 生産財

生産財の生産指数は、107.6で前年比2.5%と3年連続の上昇となった。

図5は、総合指数の伸びに対する財別の寄与度について平成16年以降の推移を表したものである。

19年は、18年に続き耐久消費財、生産財の及ぼす影響が非常に大きくなっている。

図5 鉱工業総合指数の伸びに対する財別寄与度の推移



※グラフ上の数値は、総合指数の上昇率